

# 「食」と「エネルギー」で農地を守る ソーラーシェアリング市民農園における実践活動

近畿大学<sup>1</sup>（森脇万尋・飯干知香）・龍谷大学<sup>2</sup>



- 太陽光の恵みを最大限に活用する「新しい農業の形」
- 日本唯一の市民協働によるソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）市民農園：太陽光パネルを設置した市民農園におけるサツマイモとエネルギーの生産
- 「循環共生型社会」に向けた「地域循環共生圏（北摂里山地域循環共生圏）」における実践活動（多様な主体による連携・協働と環境教育）
- 農業の持続性に向けた環境負荷軽減の取り組み：(1)再生可能エネルギーの生産、(2)6次産業化による地域経済発展や食品選択の見直し、(3)環境学習による知見の拡大
- 活動の目的：(1)耕作放棄地の解消、(2)食料とエネルギーの自給自足、(3)再生可能エネルギーでまちづくり、(4)多様な主体による協働実践活動により、(1)～(3)について学び、地域の環境と経済・社会課題の同時解決をめざす
- 活動の成果：(1)農作物（サツマイモ）の6次産業化：①宝塚すみれ発電による芋焼酎（「宝塚芋人」）の生産、②コープこうべによる紫芋パイの生産（農福連携）  
(2)再生可能エネルギーの生産・販売：宝塚すみれ発電によるコープこうべ（コープでんき）への売電  
(3)防災時の地域貢献：生産した再生可能エネルギーは、地域（宝塚市）の災害時の非常用電源として活用  
(4)学生の社会参画：社会課題解決のための活動への主体的な参加と「実践活動×環境学習」による社会課題の共有と知見の拡大により、ウェルビーイング（Well-being）が実感できる良好な環境の創出に向けた持続的な活動、心豊かな暮らしを目指すライフスタイルの変革が期待される

## 背景と目的

### 1. 背景

- ・ 宝塚市西谷地区の人口減少と高齢化  
→ 農業の担い手不足と耕作放棄地の増加

### 2. 目的

- ・ 農地を守る（宝塚市西谷地区）
- ・ 農作物の生産と再生可能エネルギー生産の両立
- ・ 市民（地域住民や学生等）の連携・協働活動による社会課題の共有と環境学習による農業理解やライフスタイルの見直し等の促進  
→ 社会課題解決に向けた取り組み



図1：農園位置  
ArcMapで作成



図2：農園（4月）  
ソーラーパネル下は、日影ができる



図3：農園（7月）  
つる返し前の様子

## 取組内容

### 1. これまでの活動の経緯

- 2016年4月- ソーラーシェアリング開始（宝塚すみれ発電）
- 2020年4月- 近畿大学 活動開始（2021年4月- 龍谷大学 参加）  
〔農作業×学習会（社会課題・環境問題）〕

名称	KOYOSI農園
場所	兵庫県宝塚市大原野字吉ノ坪17番1
栽培作物	サツマイモ(限定)
面積	一区画 約 25平方メートル
利用料	一区画 年額 5000円(ソーラーの借地料収入があるため利用料は格安で提供)
肥料	化学肥料禁止(堆肥等の有機肥料も入れないことを推奨)

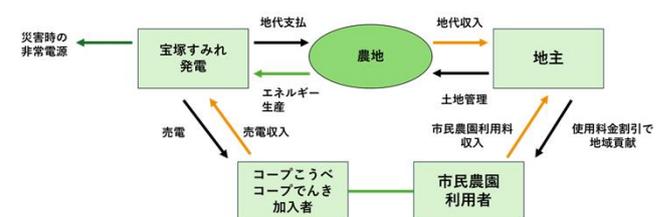


### 2. 2024年度の活動

	市民農園での活動	学習会（テーマ）、メディアの取材（活動紹介）
4月	畝たて・マルチはり	「ソーラーシェアリングについて」（宝塚すみれ発電）
5月	植え付け	「コープこうべと環境」（コープこうべ SDGs推進部）
6月	雑草取り	J:COM「ジモトボックス・プラス」、地域情報アプリ「ど・ろーかる」（大学生と考えるSDGs：「学生が動かす未来農業！宝塚でソーラーシェアリングにチャレンジ」）
7月	つる返し	「気候変動と食料問題」（龍谷大学） 「わたしたちのくらしから考える環境と経済」（近畿大学）
10月	収穫	「地域の農業を守るために地域の資源で稼ぐ」（龍谷大学） 「わたしたちのくらしから考える環境と経済（2）」（近畿大学） J:COM「ジモトボックス」（いもほり×SDGs）
12月	成果報告会（活動報告・学習・交流等）	



## 市民農園 連携・協働モデル



## メンバー

- 近畿大学 総合社会学部 藤田香研究室 3年生: 森脇万尋・飯干知香・辻合勇哉・内山拓翼・上野秀太・山口慶・太田健介・森田悠介・大西晴菜・野村歩乃花・関谷美那・山下夏奈楓・松山晴紀・村上りつ・田中優衣・城村絵莉香・安永圭伸・本田愛実
- 龍谷大学 農学部 竹歳一紀研究室 3年生: 大濱達矢・木村美月・高橋輝将・佐次憂稀・太田怜奈・宗村咲汰・安藤遼・吉本莉香・多賀弘将・杉浦颯希・塚本瑠菜・森岡大智・寺内大輔・阪本爽太・古澤彩奈・吉田陽美・瀬川さな

## 得られた知見と今後の課題

- 農作業の手間暇を体感し、農業生産を取り巻く環境（高齢化や気候、安定した利益を得る難しさ）を原因とした農家の減少を実感した
- ソーラーシェアリングの存在は、持続的な食料の確保や災害時の電力に関して安心感をもたらす
- ソーラーパネルの影は農作業時の人の安全と野菜の成長を守る
- 生産から加工まで地域で行い、都市と農村の連携が図れる
- 次世代の農業の担い手を獲得：都市部の人に農業のやりがいや西谷地区まで足を運ぶ価値（一人あたりの耕作面積の増加等）を伝える必要がある
- ソーラーシェアリングの推進：環境負荷の低い電力使用者の増加と農園の新規設立の支援へ

謝辞：KOYOSI農園、西谷ソーラーシェアリング協会、非営利型株式会社 宝塚すみれ発電、コープこうべならびに協働実践の場に参加されたみなさまに感謝いたします。